

令和4年度 学校評価書

(計画段階・実施段階)

福岡県立鞍手高等学校(全日制課程)

自己評価				
学校運営計画(4月)				評価(総合)
学校運営方針	校訓「質実剛健 自学自習」、校是「たくましく前進者たれ」のもと、社会の変化に主体的に対応し、心身ともに健康で、五常の徳目を自己の生活規範となし、自らの可能性に積極的に挑戦する気概と叡智に富み、地域はもとより国際社会に貢献する人間を育成する。 ○学問を愛し、意欲的に学ぶ ○身体を鍛えて、強い実践力を身に付ける ○力をあわせて、美しい学校をつくる			
昨年度の成果と課題	本年度重点目標	具体的目標		
創立百周年以降、次の百年に向けた新たな学校ブランドづくりをスタートさせ、文武両道の「たくましく前進者」を育成するという不易の教育理念を堅持しつつ、SSH及びSGH事業における先進的な研究活動等を通して、高大接続改革や学習指導要領の改訂を見据えた指導法の改善に学校全体で取り組んでいる。今後はSGH及び第Ⅱ期SSHの研究成果を踏まえて、課題研究を核とする探究活動の深化をはかり、また、生徒一人一人の習熟に応じた学びを促すためにオンライン授業の効果的活用を進め、生徒の第一希望進路実現に繋げるとともに、本校の魅力の小・中学生へ浸透させることで入学志願者の増加を図ることが喫緊の課題である。	日々の授業改善と自主学習Web・スタディサプリの活用により学習指導をより一層充実させ、確かな学力の育成を図るとともに、5年目となる英語イメージ教育を活用し、「主体的・対話的で深い学び」の実践を更に強化する。また、キャリア教育の充実により、高い志を持ち自ら意欲的に学ぶ生徒を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の学力向上に向け、教師自らが高い志で研鑽を積むことで、授業力の向上を図る。 ・オンライン授業、タブレット型パソコン、まなボード等を積極的に活用する。 ・生徒の探究活動を充実させ、キャリア教育の推進により生徒に高い志を持たせ、第一進路希望の実現を図る。特に九州大学等難関大10名以上と国公立大100名以上の合格を目指す。 		
	学校行事や部活動、日常の学校生活の中で、生徒相互及び生徒と教師との人間的な触れ合いを大切にすることにより、豊かな人間性を育み、自律心と思いやりの心を持つ「たくましく前進者」を育てる。「鍛ほめ福岡メソッド」に基づき、生徒に自らの可能性に気付かせながら、自尊感情を培い、人間力を高める指導を組織的・計画的に行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・学校や社会のルールを「全校統一テーマ」により、生徒自身に考えさせることによって、主体的で積極的な集団参加の態度を育成する。 ・分団制の推進により、上級生がリーダーシップを発揮し、自主性や集団への帰属意識を高め、生徒の「生きる力」を育む。 ・感染症対策を図るとともに、部活動においては適切な休養日及び活動時間等を設定し、計画的・効率的な活動を心がける。 ・鞍高宣言の主旨を浸透させることでいじめの撲滅を推進するとともに、元氣な挨拶が飛び交う学校にする。 		
	SSH事業により培われた探究活動を、全教科・領域で推進するとともに、大学や外部機関との連携を深め、教育活動の更なる充実・深化を図る。また、このような本校独自の学びを第一希望進路実現に繋げ、その成果を地域へ浸透させることによって、志願者数の増加を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・大学、研究機関・企業・地域との連携を推進し、探究的な活動を充実・深化させる。 ・国内外への研修やICTを使った国際会議等への参加を積極的に行い、グローバル人材の育成を図る。 ・学習指導要領改訂の趣旨を生かした、本校の特色である探究活動を中心に据えたカリキュラムを開発するとともに、普通科再編を見据えた研究を進める。 ・地域や小・中学生に本校の魅力を知る機会を多く提供する。 		
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)	次年度の主な課題
教務部	学務課	日々の授業の円滑実施と授業力の向上(ICT、オンライン授業等の活用)、年間行事予定・授業実施計画の作成・運用	時間割変更等を担当者の期間を決めて輪番で行うことで、担当者の負担の軽減を図る。若年者教員に教務部の仕事について理解を深めてもらい、次世代を担う人材を育成する。Teamsの効果的利用を促進する。	
		適切な観点別評価の実施	新学習指導要領の理念に基づく新しい評価の実践を行い、教務規定を含め本校の実態に合わせて改善していく(SSHの評価法含む)。	
		生徒の学力に応じた授業編成、個に応じた指導の実践	生徒の実態に応じて、習熟度別授業やクラス編成について本校の最適解を検討する。最も効果的な学習指導を可能とする指導形態や編成を考える。生徒への課題等が適切なものとなるよう、教科間の連絡・連携をさらに深める。	
	情報課	入学者選抜の確実な実施と新方式の検討	広報課と連携した中学生・保護者への広報活動をさらに活性化させる。今後も選ばれる学校であり続けるための具体的方策を検討・推進する。	
		校務支援システムの円滑運用	職員間でさらに校務支援システムの運用に関する情報の共有を行い、誰もが運用できる体制を推進する。情報支援員と協力して、活用時期に応じた職員研修を行う。	
		ICTを活用した授業改善・業務改善の推進	設備の更新や再配置によって、職員・生徒がICTを活用しやすい環境を整備する。 活用方法の情報交換を行うことで、教科・科目・担当者にあったICT活用の研修を行う。 ICTを活用したオンライン授業等を通して、学びの保証を行うとともに、振り返り学習への支援強化を行う。	

学校関係者評価	
評価(総合)	自己評価は
	A : 適切である B : 概ね適切である C : やや適切である D : 不適切である
項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)	次年度の主な課題	項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見	
生徒指導部	生徒指導課	教師のカウンセリングマインドに基づいて、生徒が元気で意欲的な学校生活を保障する。	教師が生徒一人一人に目を向け、生徒に自己肯定感を持たせ、自主・自律の心を高めることができる生徒指導を推進する。				
		アンケート調査や面談を活用し生徒の状況の把握に努める。学校でのあらゆる活動を通して生徒との信頼関係を構築し、たくましい生徒の育成に努める。					
		基本的な生活習慣の確立を図る。(挨拶、時間厳守、整理整頓)	生徒会や分団リーダーによるマナーアップ運動を展開する。また、定期的に登下校指導等を行い日常的な挨拶の励行を行う。				
		全職員による生活指導、マナー指導(情報モラルの育成を含む)を行う。					
	保健課	上級生のリーダーシップを生かし、生きる力を育む生徒指導を展開する。	75%以上の部活動加入率を継続する。(部活動紹介等を実施する。)				
		生徒主体の分団制による生徒会行事を通して共感的人間関係を育成する。					
	保健課	心身の健康を自己管理できる生徒を育成する。	教育相談委員会や学校医と連携して教育相談体制の充実を図る。				
		保健講話等による健康教育の充実や新型コロナウイルス感染症等の予防の徹底と迅速な対応を行う。					
	人権教育課	委員会活動を活性化し、美しい学校をつくる。	保健委員会、美化委員会を定期的に関き、生徒の健康観察や感染症予防、校内美化を徹底させる。				
		全生徒・職員による毎日の清掃活動による環境美化の充実を図る。また、清掃道具等の備品充実を行う。					
人権教育課	学校の教育活動全体を通して、様々な人権問題について理解を深め、実生活に活かせるように指導の充実を図る。	人権教育授業を充実させ、生徒に人権感覚を身につけることができるよう、各学年や各クラスでの指導の充実を図る。					
	生徒間の交流や学級活動を通して、より良い人間関係を築くためのコミュニケーション能力を養成する。						
人権教育課	アンケートや職員研修を充実させ、生徒の実態を把握する。いじめの見落としゼロ。	いじめアンケート等を毎月実施し、問題に迅速に対応できるよう努める。					
	校内職員研修会を実施し、職員間で情報を共有する場を設け、指導の充実を図る。						
進路指導部	進路指導課	地域の拠点校として、難関大10名を含む国公立大学100人以上の合格を目指す。	課外授業の充実。				
		模試の結果を分析し、学力層に応じた手立てを行う。					
		生徒一人ひとりの進路実現を目指し、的確な進路指導を展開する。	スタディサプリの効果的な活用。				
	進路指導課	多様な入試形態に対応する。	各進路行事を通して、生徒の将来像を明確にする。				
		1・2年生対象にハイレベル講座の導入。					
		進路情報、入試情報の提供。					
研修図書課	適宜情報交換をし、生徒に適した入試形態を模索する。						
	職員研修及び若年者研修を計画的に実施する。	職員研修の講師(SCやSSWなど)に年度当初に依頼する。					
	職員・若年者に必要な研修を精査し、計画的に実施する。						
	各分掌・各教科と連携し、「新たな学びプロジェクト」「イメージ授業」「学びの開発ルーブリック」の実践に取り組む。	「新たな学びプロジェクト」の実践に、各教科と連携して取り組む。					
研修図書課	職員や生徒の読書活動を推進する。	「イメージ授業」をできるだけ多くのクラス、教科で実施する。					
	「指導と評価の一体化」に向けて、新しい評価方法を周知徹底する。						
企画部	庶務課	「読書の種」の内容を工夫し、年に3回発行する。					
		芸術鑑賞会を成功させる。	出演者と打ち合わせを行い、計画的に準備をすすめる。				
企画部	広報課	他分掌・PTA・同窓会との連携強化による諸行事の円滑化	諸行事の効率化を図り、厳粛な中にもあたたかみのある式典を目指す。				
		防災教育の充実による防災意識の向上	教員・PTA・同窓会の三者の連携による学校の活性化を図る。				
		災害の発生に備え、防災訓練の充実と危機意識の涵養を目指す。					
企画部	広報課	避難場所の選定を行い、備蓄品である非常食の管理を徹底する。					
		本校の魅力発信のための手立ての工夫と改善	ホームページの即時更新を目指す。また、YouTubeにおける本校チャンネルを活用し、SSH等の活動や学校行事等を配信する。				
		鞍手高校オリジナルの品物を作成・配布するなど、中学生だけでなく、保護者の印象にも残るよう工夫する。					
企画部	広報課	受検者数の確保・拡大のための効果的な広報の在り方の確立。	各回の中学校・学習塾訪問を行う理由を明確にし、訪問時の不安を払拭する。また訪問後のフィードバックを確実にし、全職員に還元する。				
		感染症拡大時においても確実に広報活動が行えるように事務室との連携を密にする。					

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)	次年度の主な課題	項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
特色化推進部	特色化推進課	人間文科コースのさらなる特色化の推進および発展	校外研修の内容を工夫し、コロナ禍でも実施可能な企画し実施する。 基礎学力の確実な定着のための習熟度別学習及びコース独自授業の活用し、コミュニケーション力・課題設定力の育成を図る。 パンフレットの作成等により、コースの魅力を発信する機会を増やす。			
		理数科のさらなる特色化の推進および発展	校外研修の内容を工夫し、コロナ禍でも実施可能な企画し実施する。 基礎学力の確実な定着のための習熟度別学習及びコース独自授業の活用し、コミュニケーション力・課題設定力の育成を図る。 パンフレットの作成等により、科の魅力を発信する機会を増やす。			
		探究活動を中心とした本校の特色ある教育活動の推進	進路指導部や学年部と連携し、第1学年における探究基礎の取り組みを計画、立案し、課題設定力の育成を図る。 課題研究において、より詳細なデータの分析に取り組みさせることで、データ分析力の育成を図る。 広報課と連携を密に図り、探究活動を中心とした本校の特色をわかりやすく伝えられるような学校ホームページの充実に取り組む。			
	SSH課	本校独自のSTEAM教育の研究・開発	「環境・エネルギー」を中心テーマとした探究活動に取り組むことで、本校独自の「STEAM教育」の手法について研究する。 学校設定科目「数理学Ⅰ」、「数理活用」において、統計学、データサイエンスの基礎を身に付け、課題研究に生かすためのカリキュラムを開発する。 大学や他の研究施設との連携を推進し、より独自性と発展性を高めた理数教育の実現を図る。			
指導と評価の一体化の取り組み		教科担当が学びの開発ルーブリックを導入しやすいよう、マザールーブリックの開発を行う。 教務部と連携して、自己評価、相互評価等、様々な評価を統計的に分析し、評価法の改善、指導の改善、および生徒自身の学習の改善に生かすことのできる資料を提供する。				
外部との連携によるコミュニケーション力の育成とSSHの成果の普及		地域の小・中学生等を対象とした公開講座等を開催し、理数教育ネットワークの構築を図る。 鞍高祭での科学展示、および筑豊プ子科学館等の取り組みにより、生徒のサイエンスコミュニケーション力の育成を図る。 HPや広報紙等で、SSHの取組を校外へ積極的に広報する。				
学年部	1学年	学習習慣の確立と基礎学力の育成	読解力の向上のため朝読の実施(図書館の積極的な利用)。 学習習慣の確立に向けた、主体的学習計画の徹底(K-Note活用)。 考査、模試、授業の振り返りや面談等で理解度の学力の確実な定着を図る。			
		進路に向けた、視野拡大と具体性を持たせる	課題研究を通して社会的視野を広げ、進路選択の幅を広げる。 積極的且つ定期的な進路面談を行い、進路についての意識向上を図る。 学年別進路説明会や三者面談等で保護者に対する進路の情報提供を積極的に行う。			
		基本的な生活習慣の確立と学校行事に主体的に取り組む態度の育成	健康管理と休まないことの意義を説き、自己管理の徹底をさせる。 タイムマネジメントスキル向上の為に、スケジュール管理の徹底をさせる。 学校行事を通して計画性、協調性、多角的視点を養う。			
	2学年	自ら律する生徒を育成する。	健康管理に努め、安易に欠席をしない姿勢を持たせる。 規範意識を高め、公私の区別をつけさせる。 美化意識の高揚を促し、清掃活動を徹底させる。			
		家庭学習を充実させ、基礎学力の定着・応用を図る。	思考力や探究力を育む中、外部模試等にも対応できる学力を養う。 具体的な進路目標を設定するよう促す。 個人面談を通して、生徒の言葉に傾聴しつつ進路への意識を高めさせる。			
		生徒が主体的に将来を展望し、進路目標を設定することを促す。	面談や「学年通信」を通して、生徒・保護者に適切な進路情報を提供する。 SSHの「探究活動」の時間や講話を通して進路について幅広く考えさせる。 外部模試結果の分析を適正に行い生徒個々に対応した進路指導を行う。			
	3学年	教養を高め、受験を通して成長させる。	個別指導や講座による学力層に応じた指導を継続する。 学年集会や進路HR及びそれぞれの授業において、生徒への動機づけを行う。 クラス全体、学年全体が一丸となって、受験に向けた雰囲気作りを行う。			
		鞍高生としての誇りを持たせ、様々な活動に全力で取り組ませる。	規範意識を高め、鞍高生としてのさらなる自覚を促す。 学校行事を通し、自他のよさを認め合い、改めて学校行事の意義を考えさせる。 先輩・後輩の繋がりを体感させ、何事にも全力で取り組ませる。			
		進路目標の達成(難関校10名を含む国公立100名以上の合格)	生徒の目標設定・実現に向け、日常的にアドバイスを行う。 校外模試の早期分析を行い、適切に活用し、生徒に還元する。 最後の最後まで努力を継続するように、粘り強く指導する。			

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

・
・
・
・
・

評価項目以外のものに関する意見